

助産院紹介

ウパウパハウス岡本助産院

【院長】岡本登美子さん

川崎市中原区



【なりたち】長崎の五島列島で育ち、中学生の時に白い割烹着で自転車に乗って往診に向かう助産婦に出会いました。島で助産師をして、その後上京し病院で働いていました。そんな時夫から「開業したら？」と言われて、島で培い、病院で学んだことを地域の母子のために活かそうと思いました。

一般社団法人

子育てサポートハウスmarimo助産院

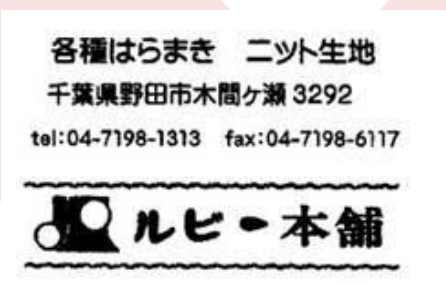
【院長】中島清美さん

相模原市南区



写真中央：院長の中島さん

【なりたち】2003年個人開業し、自宅分娩と母乳外来を行っていました。地域に助産院を残したい、多くの助産師が働く場所を作りたいと思い、2017年に法人化し、有床施設として現在の場所に移転しました。



公益社団法人 神奈川県助産師会
〒231-0037

神奈川県横浜市中区富士見町3-1

神奈川県総合医療会館6階

TEL: 045-262-4201

E-mail: office@kanagawa-josanshi.com

HP: http://kanagawa-josanshi.com/



事務局より

2022年度年会費引落日
1回目：2月24日 2回目：3月23日

事務局に新しい風を吹き込んでくれる、宇津宮さんと吉野さんが入職されました。よろしく願い致します。

また、林が定年退職いたします。7年間、お世話になりました。会と会員の皆様の益々の発展を祈念致しております。

編集後記

委員に新しく頼もしいメンバーが増え、楽しく活動しています。会の活動を知っていただくべく委員会活動を行っています。仲間をいつでも募集しています。

【院長メッセージ】

大切にしていることは「人」「健康」「愛情」です。母子、チーム、家族とコミュニケーションをとること、声をかけあうことは島で培ってきました。母親たちが安心して復職できるよう保育施設を作り、さらに母子を支えるために訪問看護ステーションもオープンしました。様々な母子に寄り添うべく今も進化しています。

（取材：野村）



【院長メッセージ】

いのちのはなしの活動を通して、子供たちに自分たちが生まれてきたことが、とても素晴らしいということを知ってほしいと思い活動を続けています。その子供たちが自然にお産をして、自然に子育てして年を重ねていく、それを手助けしていきたいです。

また、多くの助産師が保健指導で開業しても、my助産師としてこの場所でお産から離れないケアを続けて欲しい。そのためこの場所を残していきたいです。（取材：伊東）



公益社団法人 神奈川県助産師会 ニュースレター

みらい

2021年12月 VOL.16

会長あいさつ

このニュースレターがお手元に届くころには、ワクチン接種率も上がり、新型コロナ感染者が減っていることを祈るばかりです。第5波の感染者数は神奈川県でも高値を示し、千葉県の妊婦の新型コロナ感染による事例報道後、妊産婦や家族の不安は増し、電話相談の件数が通常の3倍になる現象が起こりました。

当会では、9月4日夕刻、急遽緊急会議を、オンラインで開催しました。神奈川県災害小児リエゾン医師の立場から現状と見解、神奈川県看護協会職能委員の現場で起こっていること、助産師会では感染者への対応のアンケート調査の結果、クリニックの対応、それぞれに報告を行いました。スタンダード感染対策、情報の共有、連携で乗り越えたいものです



会長 岡本 登美子

保健指導部集会報告



保健指導部会
部長 又木由美

令和3年11月7日（日）にオンラインにて部会集会を開催しました。テーマは、「コロナ禍の保健指導、どうしてる?！」

毎年実施している部会員の活動調査報告の他、今年度は感染対策実施状況や感染対策への意識変化を調査したので、その結果報告もしました。母乳ケアを実施する際、新型コロナ感染対策のため、マスク・グローブの装着が定着しつつあり、開業助産師個々の感染対策は強化されています。しかし、小グループに分かれての話し合いでは、発熱を伴う乳腺炎のケアはどうしているか？家族が濃厚接触者になったら、自分の仕事はどう対応すべきか？など、一人で活動しているからこそその不安があることも分かり、「ざっくばらんに話ができて対応策などを共有できたことは有意義でした。」と、嬉しい感想を頂戴できました。

この部会集会は、県内の部会員同士顔の見える関係づくりにもなります。今後もテーマや内容を検討しながら、実施してまいりますので、是非次年度も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

保健指導部会委員を紹介します

代表理事 又木由美 川崎市

副代表 山浦直子 海老名市

池上孝子 横浜市

竹内章子 横浜市中区

長頭めぐみ 横浜市

一緒に活動しませんか～

コロナ対策・緊急会議 神奈川県助産師集会を開催して



事業統括理事
布施明美

9月4日（土曜日）神奈川県助産師会と神奈川県看護協会助産師職能委員会が協力しコロナ対策・緊急会議神奈川県助産師集会をZOOMで開催し、参加者は84名でした。

緊急会議を開催した理由は、①8月に千葉県の新型コロナ感染妊婦の報道から同じ事象がいつ発生するかわからないこと②神奈川県内のコロナ感染者数が1700～2,000人に増加し家族内感染による妊産婦のコロナ感染の増加していること③神奈川県内の医療の現状を理解し、最新のシステムと正しい知識で感染対策をする必要があるために開催しました。神奈川県内のコロナ感染の現状について倉澤健太郎先生にご講演頂き、その後神奈川県看護協会助産師職能委員会から総合周産期センターでの感染者の看護の実際、また地域のクリニックの医療の現状、最後に神奈川県助産師会のコロナ電話相談の実情の報告がありました。

この会議で感染者数の増加によりシステムが変化していることやワクチンの重要性、妊産婦の感染者の動向、新生児への対応策、母乳の管理などを学ぶ機会となりました。明日からの医療・看護にすぐに役立つ情報が共有され大変貴重な時間となりました。今後も必要時このような緊急会議を開催し、正しい知識のもと、質の高い看護を提供できるよう尽力したいと考えています。



『家族で聴きたい「いのちのはなし」』活動紹介

助産師が伝える「いのちのはなし」事業
中島清美



『家族で聴きたい「いのちのはなし」』は平成27年より家族を対象として企画がスタートし、講師を養成する目的をもって実施内容の検討なども行っています。コロナ禍にて昨年よりオンライン開催となりました。また今年度新企画として30名以下の地域の団体、家族対象に出張とオンラインでの講座の開催を始めました。

内容は低学年向きと高学年向きを展開し継続的にお子様の成長段階に沿って受講していただけるように企画しています。講師は指導案、資料を作成し、委員会でロールプレイングを実施し本番を迎えます。

オンライン開催は初めての経験で試行錯誤しつつも生命の誕生の神秘、いのちの尊さを伝え、自分や他者を大切に思う気持ちを家族とともに考えていけるよう取り組んでいます。



『女性のための健康講座』活動紹介 担当理事 山田 舞



女性のための健康講座では、女性の生涯に渡って様々な年齢層への講座を実施してきました。一昨年より、コロナ禍で対面での出前講座開催が苦慮し、オンライン講座へ上手く移行できない状況の中、都内に本社を構える（株）鈴与シンワート様から、働く女性に対してオンライン講座の依頼があり、9月17日（金）オンラインにて「女性のための健康講座 ～働く女性が自分らしく生きるためのヒント～」と題し、女性社員20代～60代、計17名へ実施しました。

依頼のきっかけは、当会のHPにある『更年期を幸年期に！』に心惹かれたとのことでした。事前の打ち合わせから、月経困難症や更年期症状など、多くの女性社員が女性特有の悩みを抱え、仕事にも影響している現状を知り、委員会メンバーで、幅広い内容の講義構成を検討し、仕事終わりに参加されるとのことで、体操を取り入れたり、短時間で少人数のグループワークを行うなど工夫しました。幅広い内容でしたので、講師2名とし、スムーズに進行できるよう、グループワークでは各グループに1人ずつファシリテーターとして助産師が入りました。

アンケート結果では、貴重な機会だった、大変勉強になった、グループワークもっと長くしてほしいなどご意見を頂き、企業担当者からは、続編を企画してくださるとのことでした。今回のオンライン講座で、働く女性が抱える体の悩みや問題、今後聞いてみたい興味のある講座など、生の声を聞け、今後も、皆様のご要望にお応え出来るような講座内容を提案していきたいと思います。



内閣府男女共同参画局表彰 令和3年度「女性チャレンジ支援賞」受賞

本会の岡本登美子会長が内閣府男女共同参画局が実施する令和3年度「女性チャレンジ賞」を受賞されました。男女共同社会の後押しとなる活躍や、それを支援する女性個人や団体などを国が顕彰する賞であり、2004年から続く制度で、今年は全国から6人選ばれました。今後益々のご活躍を祈念いたします。



看護賞 市川恵子様
厚生労働大臣表彰 鈴木令佳様
母子愛育会会長表彰 二見智枝子様
日本家族計画協会会長表彰 岡田律子様
母子保健推進会議会長表彰 布施明美様
神奈川県公衆衛生協会会長表彰 諏訪和美様
日本助産師会会長表彰 岡田律子様
永年活動感謝状 仲かよ様、長谷川充子様